

## 編集後記

日本機械学会 技術と社会部門 ニュースレターNo.41の発行にあたり

第97期の広報委員会委員長をさせていただいております福山大学の関根でございます。

機械の多くは、本来社会の役に立つために誕生したものであり、そして発達してきたものであります。したがって、機械技術を理解し、より良い社会を創り上げていくためには、様々な技術が忌まれた社会的背景を始め、技術と社会の“つながり”について理解を深めることも、とても大切なことと思います。

今号では、「技術と社会部門 功績賞を拝受して」において、日本機械学会が2007年より取り組み始めた機械遺産の話題を掲載させていただきましたが、機械遺産は技術の歴史という視点から、技術と社会のつながりについて理解を深めていくものであり、機械を理解し、世の中に役立つ機械を生み出していくためには、昔の機械が「どのような社会的背景によって生み出され、それによって、どのように世の中の役に立ったのか」を知ることは、とても重要です。機械遺産第38号の「としまえん カルーセルエルドラド」([https://www.jsme.or.jp/kikaiisan/heritage\\_038\\_jp.html](https://www.jsme.or.jp/kikaiisan/heritage_038_jp.html))については、私も気になります。このような歴史的に価値のある遊戯施設を修理復元し、現代まで動かし続けてくれる良心的な遊園地であるとしまえんが閉園にならないよう、願いたいものです。

「若者の理科離れ」が重大な社会問題とされる中、年次大会での市民フォーラムやスターリングエンジン競技会・発表会、新☆エネルギーコンテストといった活動はとても大切です。現代は、お金さえあれば、インターネットの通販で欲しいものはラクに手に入れることの出来る便利な世の中ですが、自らの頭で考え手を動かして何かを作り上げるといったことを経験することは、とても大切なことです。このような活動は、これからも長く続いていくことを願いたいと思います。

また、「離島航路支援に関する調査研究と離島地域の買い物支援事例」では、交通不便な離島に暮らす買い物弱者の実態と、これを解決していくための提案として、シームレス小型船システムの開発についての話題を掲載させていただきました。高齢化社会が叫ばれる中、限られた資金や人員で離島に居住する高齢者の方々の生活を支援しなければならない、といった社会のニーズに応えるべくして開発されたシームレス小型船システムもまた、これからの社会を、より良くしていくための大切な技術のひとつと思います。

No. 38から始まった[高専 & カレッジ巡り]も、今回で4校目となります秋田工業高等専門学校を紹介させていただきましたが、秋田高専もまた、早い時期から地域社会との密接な連携に取り組み、地域産業の振興に貢献してきた学校でありました。次号以降につきましても、このような高専やカレッジについて、ご紹介させていただきたいと思います。

最後に、技術と社会部門のニュースレターは、広報委員会の委員の方々を含め、様々な分野の方々のお力添えをいただきながら、進めていかなければならないものと存じますが、技術と社会の係り合いを基軸とし、出来るだけ魅力的な内容のニュースレターを発信していきたいと考えております。

すので、これからも何卒宜しくお願い申し上げます。

2019 年度広報委員会委員長 関根 康史 (福山大学)。

発行： 一般社団法人 日本機械学会  
The Japan Society of Mechanical Engineers  
技術と社会部門  
部門長筒井 壽博 (弓削商船高等専門学校)  
事務担当 井上 理

2020 年 3 月 11 日発行  
ISSN 2185-3177

編集： 第 97 期 広報委員会  
委員長： 関根 康史 (福山大学)  
幹事： 大根田浩久 (弓削商船高等専門学校)  
委員： 筒井 壽博 (弓削商船高等専門学校)  
高藤 圭一郎 (横浜国立大学)  
滝谷 俊夫 (Hitz 日立造船)  
小宮 聖司 (神奈川工科大)  
加藤 義隆 (大分大学)  
吉田 敬介 (九州大学)

日本機械学会技術と社会部門ニュースター: <http://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html>

日本機械学会

技術と社会部門ニュースターNo.41

(C)著作権:2019 一般社団法人日本機械学会 技術と社会部門